

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Exposure to house dust mite allergen and endotoxin in early life and sensitization and allergic rhinitis: the JECS

和文タイトル:

幼少期のエンドトキシンとチリダニ抗原ばく露と抗原感作及びアレルギー性鼻炎との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: International Journal of Environmental Research and Public Health

年: 2022 DOI: 10.3390/ijerph192214796

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

幼少期のエンドトキシンとチリダニ抗原ばく露と抗原感作とアレルギー性鼻炎との関連については、エンドトキシンと抗原ばく露を同時に検討した研究が少なく、研究結果は一致していない。本研究では、幼少期のエンドトキシンとチリダニ抗原ばく露と、抗原感作及びアレルギー性鼻炎との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査の詳細調査に参加する子ども 4,188 名の訪問調査のデータおよび 3 歳時までのデータを解析した。1 歳半時の自宅のホコリ中のエンドトキシンとチリダニ抗原量と、2 歳の時のチリダニへの感作 (IgE) および 3 歳時に医師に診断されたアレルギー性鼻炎の関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

ホコリ中のエンドトキシンとチリダニ抗原量の曝露が多いほど、2 歳時のチリダニへの感作の有意なリスク上昇がみられた。一方、ホコリ中のエンドトキシンとチリダニ抗原量とアレルギー性鼻炎との間には関連がみられなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、ホコリ中のエンドトキシンとチリダニ抗原量のばく露が 2 歳時のチリダニへの感作のリスクとなる可能性が示唆された。3 歳時のアレルギー性鼻炎については関連がみられなかったが、アレルギー性鼻炎は学童期以降に有病率が増加するため、今後追跡調査が必要と考えられる。

結論:

ホコリ中のエンドトキシンとチリダニ抗原量のばく露が 2 歳時のチリダニへの感作のリスクとなる可能性が示唆された。